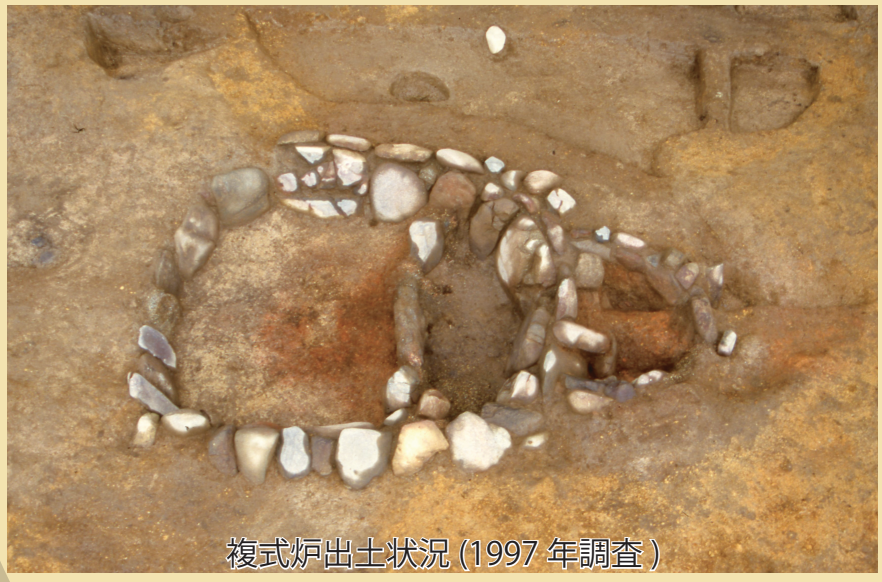
甚五郎遺跡は花巻市東和町舘迫に所在し、JR 釜石線晴山駅の南約 0.8km、標高約 140m で猿ケ石川南岸へ張り出す台地上に立地しています。

本遺跡は作業所の建設に先立ち発掘調査が行われ、その結果、主に縄文時代中期後葉 (約 4,500 ～ 4,000 年前) の複式炉を伴う 2 棟の住居跡のほか、貯蔵穴が 31 基、石囲い炉 1 基、遺物包含層など、遺物では縄文時代前期～晩期 (約 6,000 ～ 2,300 年前) にかけての土器や石器・石製品・土製品などが見つかりました。

検出された遺構で注目されるのは、縄文時代中期後葉の住居群とそれ以前につくられた貯蔵穴群が重なって見つかったことです。

このような遺構の重なりや出土遺物からみて、縄文時代のいくつかの時期にわたって、この場所が人々により長期間利用されたと考えられます。



複式炉出土状況 (1997 年調査)